

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (新規)

提出区分	新規	整理番号	25	課題区分	A	令和3年 4月7日	
横断的な課題	令和元年東日本台風災害からの復旧・復興						
地域重点政策	被災した農商工業の再生					長野地域振興局	
実施機関	長野農業農村支援センター			担当課	所属	長野農業農村支援センター	
事業名	「令和元年東日本台風からの復旧復興の記録集」作成事業				電話	026-2354-9514	
					E-mail	nagano-nosei@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	令和元年東日本台風災害により甚大な被害を受けた長野地域の農業が、国等の支援策を受けて復旧復興し、営農再開するに至った経過及び滞水や堆積土が農作物の生育に及ぼす影響を調査して農家を指導してきた経過を記録することにより、今後の栽培技術指導に活かすとともに、万が一の災害時に復旧復興を進める資料とする。					
	現状と課題	千曲川流域の洪水被害は、江戸時代の記録にも残る。現代では頑丈な堤防が整備され、安全と安心を得ているが、地球温暖化等の影響で集中豪雨が全国で頻発するようになり、洪水は決して過去のことではない。 そのような中で発生した令和元年東日本台風による被害は、長野地域の農業に大きな被害を与え、特に果樹に甚大な被害を及ぼし、産地の存続も心配された。 将来、災害が無いことを願いながらも、万が一災害が発生した際、その復旧復興を迅速にかつ的確に進めるには、過去の記録が参考となる。このため、被害状況を細かく把握し、常に農家に寄り添った支援を進めてきた今回の対応経過を、記録集としてまとめる必要がある。					
	内容	今後災害が発生した際に復旧復興の参考とするため、長野地域の農業が令和元年東日本台風災害から復旧復興し営農再開に至った経過や、農家を指導してきた経過等を取りまとめ、記録集を作成する。 <記録集の内容> ・被災しながらも復旧復興を図った農家の声 ・市町村の復旧復興に向けた取組 ・農業機械、共同利用施設、きのこ栽培施設等の復旧経過 ・農地に堆積した土砂の排土経過 ・営農再開に至った経過と再開支援の経過 ・農作物の被害追跡調査の状況 ・堆積土による影響調査と技術指導 他 なお、りんご、もも、栗やナガイモなど、流入した土砂や泥水の影響を受けた作物、田畑の土壌は、1年を経過して影響がなくなったわけではなく、流入土砂由来の肥料分などが、今後も作物の生育には少なからず影響を及ぼすと考えられる。農業農村支援センター、JAの技術員及び市町村が行う栽培技術指導や研修会等において本記録集に掲載した調査結果等を活用していく。					
事業期間	令和3年1月29日 ~ 令和3年3月31日						
事業費	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	記録集作成事業	印刷製本業務	252,560	計画額は500,000			
	合計		252,560				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	記録集の配布・普及		150部	200部	● 達成		
					○ 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	令和元年東日本台風による被害状況の他、農作物の生育、土壌に及ぼす影響を調査し、農家指導を行ってきた経過を含む記録集を作成することができた。おそらくは今後数年間は継続するであろう浸水や泥による影響を踏まえた、栽培技術指導、産地づくりに活用することができる。						
今後の方向性	調査結果によって得られた農作物の生育や土壌に及ぼす影響を踏まえた技術指導や産地育成を図っていく。						